

早尾紅蓮組合におけるハス花の高品質化に向けた取組

～バラ受け選花と湿式輸送の導入による出荷物の高位平準化～

石川 高史（東三河農林水産事務所農業改良普及課
前・海部農林水産事務所農業改良普及課）

植村 真也（海部農林水産事務所農業改良普及課）

【2022年4月執筆、2024年2月掲載】

【要約】

J Aあいち海部早尾紅蓮組合は、ハス花出荷物の高位平準化を目的に、令和2年度から、ほ場で収穫した切り花をそのまま選花場に持ち込み共同で選花する「バラ受け選花」（写真1）と「湿式輸送」（写真2）を組み合わせた共選出荷を開始した。その結果、取引市場や実需者からの品質評価が各段に高まり、令和3年度の注文数量は令和2年度より約14%増加し、4年ぶりに前年を上回った。さらに、注文数量は令和5年度まで3年連続増加し続けており、本取組が市場に評価されていると考えられた。



写真1 バラ受け選花



写真2 湿式輸送

1 はじめに

早尾紅蓮組合は、関西地域の8月盆で欠かせないハス花と蓮台を、7月下旬から8月上旬に出荷する組織で、令和5年度の生産者数は11名、栽培面積は5.9ha、出荷本数は約38万本となっている。当組合は全国有数のハス花の生産組織であるが、取引市場からは品質の個人格差が大きい、市場到着時に花卉が傷んでいるなどの意見が多く聞かれた。そこで、当組合は平成29年に生産者代表6名、J Aあいち経済連、J Aあいち海部、農業改良普及課をメンバーとする「バラ受け選花委員会」を設置し、ハス花の高位平準化に向けて約3年にわたり検討と試行を重ねてきた。

2 高位平準化に向けた取組

(1) 選花基準表に基づいた選別

バラ受け選花委員会の中で最初に検討したのが選花基準の見直しであった。今までの個人選花の中で生産者がどのような基準で選別していたかという意見を取りまとめ、選花項目を一つ一つ決めていった。その結果、花の咲き具合が適切であること、花傷みがないことなど計6項目を決定し、これらを盛り込んだ選花基準表を作成した(写真3)。バラ受け



写真3 ハス花の選花基準表

選花ではこの基準表をもとに1本1本選別し、6項目の選花基準を全てクリアした切り花だけを出荷することで高品質化を図った。

(2) 花の大きさを1本1本客観的に選別

当組合では花の大きさの違いで階級を3L、2L、L品の3つに区分しているが、バラ受け選花の中で花の大きさをどのように判別するかが大きな課題となった。検討を重ねる中で、今までどおり目視で判別するという意見も出されたが、最終的に選花台(写真4)を使用して1本ずつ花の大きさを選別することになった。その仕組みは、選花台の最上段部に花を置くと、花の横幅の違いにより各階級の位置まで落ちて引っ掛かるもので、生産者が一から手作りしたものである。今までの目視判定に比べ作業時間はかかるものの、客観的に計測するため同一階級内の花の大きさが揃い、切り花を結束した時の見映えも良くなった。



写真4 花の階級選別のための選花台

(3) 湿式輸送に使用する鮮度保持剤

輸送方法を乾式から湿式方式に変更するにあたり、水揚げ水に使用する鮮度保持剤を決める必要があったが、ハス花についての知見は全くなかった。そこで、切り花の鮮度保持剤メーカーであるクリザール・ジャパン（株）に相談したところ、「ブルボサス」という鮮度保持剤を推奨された。この薬剤は、ダリアやフリージアなどの球根切り花の前処理剤として使用され、花卉の変色や萎凋を抑制する効果があるとされている。この薬剤を使用して現地試験を行ってみると、花傷みを防止しただけでなく、冷蔵保管中の日持ち期間が長くなることが明らかになったため、本剤を使用して湿式輸送することを決定した（写真5）。



写真5 冷蔵庫保管7日目の様相

(4) 試験出荷を経て本格出荷へ

令和元年にバラ受け選花と湿式輸送によるハス花を主要取引市場4社に試験出荷するとともに、市場を訪問し意見交換を行った。全ての市場担当者から、品質が良くなり販売上問題ないとの好意的な意見がでたことから、令和2年度から本格的出荷に踏み切ることになった。

3 取組の成果

J A あいち経済連が令和2年度に、関西地域の主要取引市場4社へ今回の方式で出荷したハス花についてのアンケートを実施したところ、全ての市場から品質と日持ち性が良くなり、顧客からのクレーム件数がほぼゼロになったと高評価を得た（表1）。令和2年度はコロナ禍による需要の低迷、湿式輸送にともなう運賃の値上がり分を注文価格に上乗せしたこともあり、注文数量は令和元年度より約2%減少した（図1）。しかし、令和3年度は本取組が評価されたことで、令和2年度より約14%増加、令和元年度より約11%増加し、4年ぶりに前年度を上回った。その後、注文数量は令和5年度まで3年連続増加し続けており、本取組が市場に評価されていると考えられた。

市場	意見
A	顧客からのクレーム件数は0件。安心して販売できる。
B	日持ち、品質ともに顧客からの評価は良くなった。破棄する商品ロスがなくなった。
C	顧客側は花の傷みの心配が減り購入しやすくなった。クレーム件数は0件であった。
D	市場到着時の品質、日持ちともに良い。顧客の評価は高くなった。

表1 取引市場4社の評価

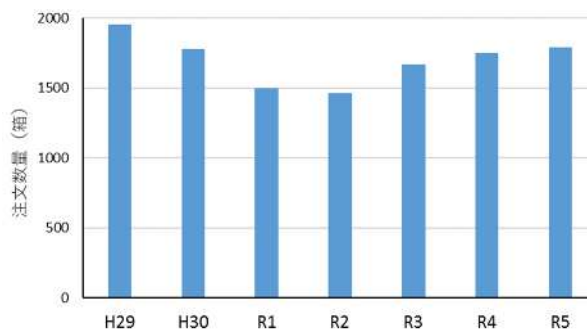


図1 年度別ハス花の注文数量

4 今後の取り組み

現在、バラ受け選花場で働く労働者は、組合員とその家族、そして組合員が雇っているパートタイマーであるが、将来的には外部のパートタイマーに委託することを計画している。これが実現すれば、生産者は収穫した切り花を持ち込むだけでよくなり、全作業時間の約3割を占める出荷調製作業を省くことができ、余暇の創出や更なる規模拡大が期待できる。また、管内生産者に対して本組合への加入を促進し、出荷量の増大による安定出荷を目指していく。

Copyright (C) 2022, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.